

市立奈良病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床試験を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	クローディン 18.2 タンパク陽性胃癌における臨床病理学的特徴の解明：多施設共同研究
当院の研究責任者	所 属：消化器肝臓病センター・消化器内科責任者：奥田隆史
他の研究機関および各施設の研究責任者	研究責任者：京都府立医科大学 消化器内科 助教 岩井 直人 他共同研究機関 京都第一赤十字病院 消化器内科 医長 吉田 寿一郎 舞鶴医療センター 消化器内科 医長 宮崎 啓 市立福知山市民病院 消化器内科 副医長 福井 勇人 京都中部総合医療センター 消化器内科 部長 小木曾 聖 済生会吹田病院 消化器内科 医長 寺崎 慶 京都済生会病院 消化器内科 医長 山内 克真 京都きづ川病院 消化器内科 統括部長 辰巳 菜津子 市立大津市民病院 消化器内科 医長 全 圭夏 済生会滋賀病院 消化器内科 副部長 石田 紹敬 近江八幡市立総合医療センター 副部長 北江 博晃 明石市立市民病院 医長 遠藤 雄基 京都市立病院 肝臓内科部長 桐島 寿彦 京都山城総合医療センター 消化器内科 医員 朝枝 興平
本研究の目的	クローディンは細胞と細胞が互いに接着し、組織を形成する際に中心的な役割を担う膜貫通型タンパク質です。その1つであるクローディン 18.2 は正常細胞では胃粘膜上皮細胞に局所的に発現し、胃癌組織でも発現が保持されています。クローディン 18.2 を標的にした治療薬であるゾルベツキシマブが開発されて実用化に至っています。クローディン 18.2 の発現については、免疫組織化学染色で腫瘍細胞の75%以上で中等度から強い染色強度を示すものをクローディン 18.2 陽性としますが、臨床試験においてスクリーニングされた患者の約38%が陽性と報告されています。 しかし、実臨床ではクローディン 18.2 陽性となる胃癌の臨床的な特徴や組織・細胞レベルでの特徴が明らかになっていません。本研究により、クローディン 18.2 タンパク陽性胃癌の臨床的な特徴や病理学的な特徴が明らかになり、胃癌の適切な治療方針が確立できる可能性があります。また、切除不能進行再発胃癌では抗クローディン 18.2 モノクローナル抗体であるゾルベツキシマブが使用可能です。ゾルベツキシマブによる治療は高い効果が得られる可能性がある一方で、治療効果を予測する因子については完全には明らかにされていません。本研究では、ゾルベツキシマブ使用例を含めたクローディン 18.2 の発現を調査した胃癌症例の治

	療成績や予後を探索します。そのため本研究は、胃癌治療の選択を行ううえでも有用である可能性があります。
調査データの該当期間	2018 年 1 月 1 日～2030 年 5 月 31 日
本研究の対象及び方法 (使用する試料等)	2024 年 3 月 14 日から 2025 年 5 月 31 日の間に、当院にて胃癌に対してクローディン 18.2 タンパクの発現を調べられた方の臨床データを前方・後方視的に検討する。
試料・情報の他の機関への提供	京都府立医科大学消化器内科
個人情報の取り扱い	匿名化し個人を同定できないように行う
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
お問い合わせ先	TEL : 0742-24-1251 担当者：消化器肝臓病センター・消化器内科 奥田隆史
備 考	